

Ono's Desk

猛暑で出くわすズメバチ

8月15日付の熊日に「ハチ被害阿蘇で急増」の記事が載った。阿蘇の病院を訪れた7月の患者は前年の3.5倍に及んだとある。どうやら今夏の暑さがハチの数を増やしたらしい。高温下でハチは興奮状態になる。ズメバチに限らないが、ハチに複数回刺されるとアナフィラキシーショックを起こすことが知られている。それで森で作業する職業の人達は、エピネフリンの自家注射用を携帯、ショックに備えるのである。ハチに刺されて蕁麻疹が生じたらこのアナフィラキシーが起こったと考えて処置せねばならない。

学生の試験に「アナフィラキシーショックとは」と問うたら、極めて正解率が悪く、小生ハチに刺されたようなショックを受けた。

ハチ被害 阿蘇で急増

7月患者数 前年の3.5倍
猛暑で興奮、攻撃的に

阿蘇地方で分ハチに刺される被害が目立つ。患者数50人上回った。阿蘇中央、熊本赤十字、熊本中央の3病院を訪れた。下旬は、阿蘇の男患者は7月で計4人と前年同月比1.5倍、8月も12人となり、8月上旬にも30代から40代の男性3人が、阿蘇中央、熊本赤十字、熊本中央の3病院にハチが刺された。採取も複数あった。刺された人は多かっ

阿蘇地方で分ハチに刺される被害が目立つ。患者数50人上回った。阿蘇中央、熊本赤十字、熊本中央の3病院を訪れた。下旬は、阿蘇の男患者は7月で計4人と前年同月比1.5倍、8月も12人となり、8月上旬にも30代から40代の男性3人が、阿蘇中央、熊本赤十字、熊本中央の3病院にハチが刺された。採取も複数あった。刺された人は多かっ

阿蘇地方で分ハチに刺される被害が目立つ。患者数50人上回った。阿蘇中央、熊本赤十字、熊本中央の3病院を訪れた。下旬は、阿蘇の男患者は7月で計4人と前年同月比1.5倍、8月も12人となり、8月上旬にも30代から40代の男性3人が、阿蘇中央、熊本赤十字、熊本中央の3病院にハチが刺された。採取も複数あった。刺された人は多かっ

刺されないための注意点 「姿勢を低く」「白い着用」

阿蘇地方で分ハチに刺される被害が目立つ。患者数50人上回った。阿蘇中央、熊本赤十字、熊本中央の3病院を訪れた。下旬は、阿蘇の男患者は7月で計4人と前年同月比1.5倍、8月も12人となり、8月上旬にも30代から40代の男性3人が、阿蘇中央、熊本赤十字、熊本中央の3病院にハチが刺された。採取も複数あった。刺された人は多かっ

平成 25 年 8 月 15 日 熊本日日新聞掲載記事

9月・10月の主な行事予定

9月1日(日)	チャレンジ熊保大！推薦入試特別講座
9月1日(日)～12日(木)	医検学科学生2名が韓国の大邱保健大学で交換研修
9月4日(水)	银杏学園理事会(本学)
9月6日(金)	4大学合同中堅職員フォローアップ研修(崇城大・熊本学園大・九州ルーテル学院大・熊保大)
9月7日(土)	3年次保護者会
9月7日(土)～19日(木)	医検学科学生2名がタイのコンケン大学で交換研修
9月12日(木)～13日(金)	主任・管理職研修(上記4大学での企画後、大学コンソーシアム熊本の冠をつけて実施)
9月18日(水)	個人情報保護に関する研修会
9月19日(木)	リハビリテーション学科合同就職説明会
10月16日(水)	動物慰霊祭
10月19日(土)	杏祭(学園祭)
10月21日(月)～22日(火)	化血研 経営戦略実践講座(阿蘇合宿)
10月25日(金)	平成26年度科研費公募学内締切
10月28日(月)～29日(火)	入試面接研修会(教員対象)
10月30日(水)	医学検査学科臨地実習認定式
10月31日(木)	慢性心不全看護認定看護師教育課程認定確認現地視察

オープンキャンパス

8月25日(日)に第2回オープンキャンパスを開催しました。大雨の影響で交通状況も悪い中、**814名**の方々にご参加いただきました。県外からも多数ご参加いただき、大変ありがたく思います。志願者増に結びつけるべく、足で稼ぐ広報活動も継続します。

医学検査学科	看護学科
理学療法学専攻	生活機能療法学専攻
言語聴覚学専攻	助産別科

チャレンジ熊保大！推薦入試特別講座

9月1日(日)に推薦入試特別講座を開催しました。当日は、またしても大雨でしたが、**過去最高の386名**の高校生・保護者の方々にお越しいただきました(一昨年：200名、昨年：352名)。例年同様、壺溪塾講師の方々も熱の入った解説をして下さいました。

全体説明	推薦入試特別講座
保護者のための説明会	大学見学ツアー
学食	相談コーナー

職員旅行

8月8日(木)・9日(金)に職員旅行で霧島へ行きました。日帰り42名、宿泊31名が参加し、バーベキュー、温泉、薩摩料理等色々な企画を通して、教職員同士の交流も深まりました。今回の幹事は、森嶋・森塚・宇宿・矢田先生を中心とした看護学科の先生方でした。ありがとうございました！



鹿児島アートの森 草間彌生氏制作の「赤い靴」にて写真撮影

*

FDセミナー

8月20日(火)に平成25年度第1回FDセミナーが開催されました。今回は「学修困難な学生への対応Ⅱ～その実態把握と情報の共有化について～」というテーマで、デフ(ろう・耳が聞こえない)アーティストの乗富(のりとみ)



秀人氏が「ろう者の母語である日本手話に対する無知と無学」という演題で講演をして下さいました。

3年次保護者会

9月7日(土)に3年次保護者会を開催し、238名(昨年:214名)の保護者の方々にご参加いただきました。小野学長挨拶、概況説明の後、各学科ごとに分かれて、国家試験や就職について説明を行いました。大学と保護者で連携を取って、学生を支えて行きたいと思います。



難病協 患者・家族交流会

8月19日(月)本学3号館において熊本難病・疾病団体協議会主催、患者・家族交流会が開催されました(アステラス製薬スターライトパートナー活動資金助成事業)。



天草や八代など熊本県内一円から約100名が参加。開会式で小野学長からご挨拶をいただいた後、患者・家族による活発な交流や意見交換が行われました。ボランティア参加の本学学生13名(ラバーズ含む)は、会場設営に書記にと大活躍でした。(看護学科助教・谷口あけみ)

タイの新聞に掲載される

コンケン大学の交換研修生4名とMT教員を4月16日(火)～30日(火)に本学で受け入れた際の記事が、タイのMatchonとBan Maungという新聞社2社で取りあげられました。左は、



Matchonの掲載記事で、写真はKKRホテルで行った懇親会の時のものです。

GSLP

8月10日(土)～20日(火)に本学の学生5名が、大邱保健大学で開催されたGlobal Student Leadership Programに参加しました。プログラムは、グループディスカッション、プレゼンテーション、韓国料理コンテスト、韓国のダンス、特別講義、観光等、とても充実した内容です。他国の学生達と寝食を共にすることで、それぞれが刺激を受けて帰ってきたようです。



知っておきたい文献の表記法と注意を要する論文の分類 No.3

雑誌の数が増加したことにより、PubMedでも『Nutr Metab 2008;5:24.』と明記され、文献の最終ページ数が記載されていないことがある。論文に引用する場合は、最終ページを確認することが必要となる。しかし、修士論文では、コロン(:)の意味を無視して、『Nutr Metab 2008;5:24.』と記載されており、2重の間違いを起こすことになる。また、雑誌と著書では記載法が全く異なることを理解しておくことが必要である。著書の Chapter を記載する場合は、基本的には Nelson DK, Malferttheiner P, Dahmen G, Dominguez-Munoz JE, Pieramico O, Adler G. Regulation of exocrine and endocrine pathways via M1-muscarinic pathways. In: Singer MV, Ziegler R, Rohr G, editors. Gastrointestinal tract and endocrine system. Academic Press, New York, pp. 570–574, 1995. という記載が一般的である。引用する著書 Title の前に『In:』が使用される。また、雑誌と違い『巻』がないので『pp.』を用いる小文字であること、また、pp.は複数ページを表し、page to pageの意味である。一方、『p』は単ページを表している。このような文献記載の基本を知った上で、指定された記載法を使用することが大切である。極論を言えば、『106, (1), 40-46.』もありである。しかし、このような記載法は、人事書類では奇異に感じられる場合がある。(文責：山口康雄研究科長) ~No.4につづく~